

---

# 「京都市立新設高校創設プロジェクト」に関する 第2回有識者会議 次 第

平成27年11月10日 9:30～11:30  
(於 西京高校 3階会議室)

---

(司会) 学校指導課 川浪首席指導主事

1. 開会の挨拶 (清水教育企画監)
2. 経過報告, 検討スケジュール等について (辰巳課長補佐)
3. 塔南高校からの報告 (塔南高校)
4. 中間まとめ (案) について (末房指導主事)
5. 意見交換
6. 閉会の挨拶 (大黒指導部担当部長)

# 「京都市立新設高校創設プロジェクト」に関する 第2回有識者会議

## 資料

- 資料1 「議題と検討スケジュール」について
- 資料2 「第1回有識者会議」摘録
- 資料3 「唐橋自治会連合会との懇談会」摘録
- 資料4 「第3回京都市立新設高校創設プロジェクト会議」摘録
- 資料5 塔南高校からの説明資料
- 資料6 「中間まとめ(案)」について

議題と検討スケジュールについて

27. 11. 10

日 程	会 議	内 容
7月1日	第1回 プロジェクト会議 ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経過説明, 今後の予定説明</li> <li>・塔南高校の現状と課題の報告</li> <li>・「中間まとめ (案)」の方向性の確認</li> </ul> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程と授業のあり方</li> <li>・生徒主体の活動, 部活動のあり方</li> <li>・地域連携等, 具体的な教育活動の特色</li> <li>・学校体制と指導のあり方</li> <li>・普通教室, 特別教室のあり方</li> <li>・ICT機器等, 特色ある教育活動を支える施設のあり方/屋内体育館やグラウンド等のあり方</li> <li>・学校規模のあり方 等</li> </ul> </div>
7月28日	第2回 プロジェクト会議 ↓ 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中間まとめ (案)」の方向性の検討</li> <li>・「中間まとめ (案)」の作成</li> </ul>
8月20日	第1回 有識者会議 (公開) ↓ 事務局・学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの経過説明</li> <li>・「中間まとめ (案)」について意見交換</li> <li>・唐橋自治連との意見交換 (9月14日)</li> </ul>
10月23日	第3回 プロジェクト会議 ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有識者会議・地域等からの意見を受けて「中間まとめ (案)」の検討</li> </ul>
11月10日	第2回 有識者会議 (公開) ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修正箇所の確認</li> <li>・「中間まとめ (案)」の検討</li> </ul>
12月	第4回 プロジェクト会議 ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>「中間まとめ (案)」の検討</li> <li>唐橋自治連, 同窓会との意見交換</li> </ul>
1月～	第3回 有識者会議 (公開) ↓ 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>「中間まとめ (案)」の最終検討</li> <li>・「中間まとめ」策定</li> <li>・1ヶ月程度 市民意見募集 (パブコメ)</li> </ul>
	第5回 プロジェクト会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブコメ報告</li> <li>・「まとめ」の検討</li> </ul>
～5月	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まとめ」策定</li> <li>・有識者会議委員には個別報告</li> </ul>



「京都市立新設高校創設プロジェクト」に関する第 1 回有識者会議（摘録）

1. 日時 平成 27 年 8 月 20 日 木曜日

開会 9 : 30 閉会 11 : 30

2. 場所 京都市立西京高校 3 階会議室

3. 出席者

【有識者】

- ・北川 進氏（京都大学物質－細胞統合システム拠点長，京都大学大学院工学研究科教授）
- ・溝上 慎一氏（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
- ・武田 靖史氏（村田機械株式会社 取締役 業務支援本部 本部長）
- ・今村 志津子氏（京都市立中学校 P T A 連絡協議会会計・久世中 P T A 会長 ※近衛中学校 P T A 会長 今野 圭子氏の代理）
- ・村上 久明氏（京都市立高等学校 P T A 連絡協議会会長・西京高等学校 P T A 会長）

【プロジェクト委員】

古池校長（塔南高），村上校長（西京高），大黒指導部担当部長，川浪首席指導主事，辰巳課長補佐，末房指導主事

【塔南高校あり方構想委員会】

沓谷教頭，黒澤教諭，松田教諭，飯島教諭

4. 傍聴者 4 名

5. 会議の概要

- (1) 開会の挨拶
- (2) 委員紹介
- (3) 経過説明，検討スケジュールについて
- (4) 「塔南高校の歩みと現状」について
- (5) 中間まとめ（案）の報告
- (6) 塔南高校あり方構想委員会報告
- (7) 意見交換
- (8) 閉会の挨拶

6. 主な意見

- ・ 「アクティブ・ラーニング」自体はすでに多くの高校，大学でも取り入れられており，新しい目玉にはなりにくいですが，取り組む意義は大きい。教員が教壇に立つて行う講義型の形態を変えられないかと考えている。
- ・ 先進的な大学として全米から注目されている「クエスト大学カナダ」では，1 クラス 20 人ほどの規模で，1 つの教室に 5，6 人用の演習室が 6 室併設されている。生徒は課題についてグループに分かれその演習室で議論や作業を行い，再び教室に戻って今度は他グループと議論を交わす等，自由闊達な議論が行える環境が整備されている。
- ・ また，新校で「開かれた教室」を作ることができないか。東京都立つばさ総合高等学校は壁

を取り除いたオープンスペースとなっている空間が多い。また競技場のような観客席のあるグラウンド等も完備されており、公立であってもこうした施設整備がされている。甲南大学はPCルームをガラス張りにしている。

- いずれも施設面を目玉とできるのは最初だけ。本質的には教育内容等の中身で勝負することが必要である。
- 岡山にあるIPU（環太平洋大学）のアリーナは2階に観覧席が設けられており、新校でもアリーナを建設する際の参考になるのではないかな。
- 同志社大学には全国トップクラスの規模のアクティブ・ラーニング施設「ラーニング・コモンズ」があるが、こうしたスタジオの形態ではなく、各教室をアクティブ・ラーニング用に整備できればより効果的である。
- 「地域連携」を特色にすることは賛成。京都の特性を活かして、新たな価値を生み出せる高校となってほしい。地域創生の議論の際にも「地元を愛する人材」の育成が大きな鍵となっており、新校においても地域との連携を通じて「京都のことが大好き」だという生徒を育成することが重要。地域での活動や、伝統に触れる機会、企業との連携を探究活動の一環でできないか。探究のテーマとしてこれらを候補に挙げ、生徒はどれか一つを選択し、取り組むイメージ。「総合的な学習の時間」を発展させ、一部の生徒のみが取り組むのではなく全体で取り組めるような工夫も必要。
- 京都は全国的にみても大学の数が多く、また狭い範囲に集中しているので連携がしやすい。大学で設置している「地域教養科目」を高校版として展開してもおもしろい。講師は大学や地域から招くと良い。
- 新校は堀川、西京を目指すのではなく、「進学多様校」を目指していけばよいのではないかな。いわゆる学力中間層の多様な生徒をしっかりと受け入れ、一人ひとりに力をつけていくべき。ただし問題はどういった「指標」を設定するかである。「国公立、私学への進学者数」といったような指標はもう古い。例えば「地域連携」を特色とする新校ならば「京都の大学に進学した生徒数」であったり、「京都にある企業に就職した卒業生数」、他には「就職した企業で活躍している卒業生数」等といった指標であれば堀川、西京にも負けない指標となり、良い意味で学校間での競争も生まれる。
- また新校の中で競争原理を導入するアイデアとして、敷地内にA校（キャンパス）とB校（キャンパス）を作り、入学段階で生徒をAとBに振り分ける。発表会や運動会等の校内行事はAとBで競わせる形をとることで、生徒がやる気を持ち、様々なことに本気で取り組むようになるのではないかな。
- いかなる組織であっても「対話」を重ねることが重要である。大学でも4回生は卒業研究生に毎日少人数で議論を交わすため、卒業研究後は人が変わったようにしっかりしてくる。
- シンガポールのとある大学では学生はe-learningで学び、授業時間中は先生が教えることはせず、質問と議論のみが行われている。こうした議論中心の大学生活を通して、やる気のある生徒はどんどん力を伸ばしている。
- 研究室では「運（うん）・鈍（どん）・根（こん）」が大事であるとよく言っている。「運」は努力があってからこそ自分に返ってくるもの、「鈍」は神経質に考え過ぎず、まず行動に移す、

「根」は根気を意味し、研究においても最も重要な要素であり、これは日々の議論や会話を通じて身に付くものだと説いている。

- ・ 京都という特性を活かし、京都の文化や歴史に誇りを持つ生徒を育成してほしい。京都は清水焼や西陣織といった伝統のものが受け継がれているだけでなく、他の文化にも寛容であり、知っていれば海外でも通用する。どんな議論もできる。
- ・ 今検討されている新校での取組は興味深いが、教員像についてはどう考えているか。生徒を指導する教員の育成も非常に重要である。
- ・ 1クラス40人は多い。教員が生徒一人ひとりと十分に対話ができるよう、多くても25人程度が良いのではないかと。
- ・ 人事部長として採用面接にも立ち会ってきたが、必ず聞く質問がある。それは「あなたが学生時代、絶対誰にも負けない自信のあることは何か。」というもの。部活動や学園祭の実行委員会、勉強、地域のボランティア等答える学生がいるが、会社に入って活躍しているのは、どの分野であっても何かに自信を持っている者である。高校段階においても、生徒に「これだけは誰にも負けない」という自信をつけさせてほしい。
- ・ 偏差値の高い大学を卒業している者ばかりでは企業は成り立たない。各個人が様々な経験を通じ、自分に自信を持っている人材が必要である。弊社の取締役にも多様な人間がおり、新校の「目指す生徒像」は我々企業人にも合致する。
- ・ 現在、地元の小学校で放課後まなびのスタッフをしているが、みらい科の生徒が来てくれることを小学生は非常に楽しみにしている。こうした世代間交流は大切であり、新校においてもさらに行ってほしい。
- ・ 地域に関しては、特に今の高校生は地域と交流する機会は少ないと感じている。
- ・ 教員には生徒に対するコミュニケーションをもっと大事に考えてほしい。学級崩壊等の原因は先生から生徒に対するコミュニケーション不足である場合が多い。
- ・ 保護者からすると、社会に出てたくましく生きる力を高校段階でも育ててほしい。普通科に在籍している生徒の絶対数は多いため、この層をいかに育てていくかが重要。カリキュラムに多様性を持たせ「市民」をキーワードに「人間力」や「社会人力」の育成を重視したカリキュラムが必要。新校においてみらい科がどのように発展していくのかも重要である。
- ・ 採用面接の際にコミュニケーション能力が不足していると思われる学生は、働いてからはどういった様子か。
- ・ そもそもそういった学生は面接の時点で不採用とすることが多い。勉強だけできても会社で活躍することは難しい。
- ・ 研究室においても同様である。
- ・ 最近では学生の質も均一化されている印象であり、面接時でも無難な受け答えしかしない学生が多い。バブル期は配属先の希望まで明確に主張できる学生が多かった。

- ・ 入社してから何か一つでも成功体験をすると大きく伸びる。入社後 3 年間は投資の期間だと考えている。
- ・ 新校において、どういった教員が教えるのかというのは重要な問題。既存の市立高校の教員のみで考えるのではなく、大学や地域から講師を招くなども考えていくべきである。
- ・ 愛校心を持った教員が何人かいれば、コアとなり活躍するであろう。そうした人材の育成も必要である。

## 京都市立新設高校創設に係る唐橋自治会連合会との懇談会（9/14）について

## 唐橋自治会連合会からの主な意見【抜粋】

## ◆教育内容（地域との連携等）について

- ・唐橋のように、幼稚園（民営）と市立の小学校から高校まである学区は市内で他になく、地域の清掃活動にしても全ての校種が参加してくれる。新校となってもこうした地域との取組は継続してほしい。
- ・現在、みらい科の生徒が小学生に教えに来てくれており小学生たちは喜んでいる。また、唐橋小6年生、洛陽高生、地域の大人等が地域の危険な場所を歩いて確認する取組を行っているが、こうした地域の大人と子どもをつなぐ役割を高校生に期待する。
- ・塔南高校はマーチングバンドが有名なので、新校においては八条中との連携も含め、何かできないか。現在、八条中は私学の洛南高校の吹奏楽部と連携し取組を行っている。
- ・ビオトープ等の小中学校にはない施設の整備や、現在洛陽工が行っているロボットに関する取組等、小中学生が新校に集うような工夫をしてほしい。
- ・南区には企業が多いため、地域の企業との連携も進めてほしい。現在でも日本新薬の薬草園（山科）見学やワコールの会社見学など行っている。
- ・唐橋独自の伝統文化として、松尾大社の祭りで使う神輿を学区として有している。神輿の担ぎ手についても高校生に声かけをしているので、そうした伝統文化事業にも協力してほしい。
- ・いわゆる進学校のように進学実績ばかりを強調する学校にはなあってほしくない。

## ◆施設面について

- ・現在、JR西大路駅を中心とした西大路地区のバリアフリー化、八条団地の建替え、そして新校創設の3つの大きな話が同時期に検討されている。西大路駅から新校に直結する道を新たに作るなど、これらのプロジェクトを通じて地域の活性化につなげたい。
- ・新校を地域防災の拠点となるよう器具庫だけでなく消防団の拠点等も置いてほしい。
- ・敷地内に自治会が会議等で利用できる部屋を作ってほしい。
- ・オーソドックスな校舎の形が最も活用しやすいのではないか。
- ・新校にもカフェテリアのような施設ができれば、多くの地域の方が利用するであろう。



## 第 3 回「京都市立新設高校創設プロジェクト」会議での主な意見について

1. 日時 : 平成 27 年 10 月 23 日 10:30~12:30

2. 場所 : 西京高校

3. 出席者 :

## 【プロジェクト委員 (下線)】

古池校長 (塔南高), 村上校長 (西京高), 田邊校長 (七条中)

市教委 : 大黒部長, 三宅課長, 川浪首席指導主事, 辰巳課長補佐, 末房主事, 沖田

## 【塔南高校あり方構想委員】

沓谷教頭, 正木主幹教諭, 黒澤教諭, 松田教諭, 飯島教諭

4. 議題

(1) 塔南高校内での検討状況について

(2) 「中間まとめ (案)」について

### 主な意見

- ・現在, 学年ごとに取り組んでいる「総合的な学習の時間」について, 1 年生から 3 年生まで系統立った内容となるよう, 学校全体で取り組むべき。そのための総学の検討組織や分掌のあり方については今すぐにでも検討すべき。
- ・教職員の意見交流会では, 将来の内容を議論するだけでなく, 今の塔南が抱える総学を含めたカリキュラムやみらい科, 部活動の課題についても共有すべき。
- ・改革を進めるにあたっては, 高校卒業までにどういった生徒を育て上げるのか, すなわち「スクールアイデンティティ」をまず定めるべき。また, 新校創設に向け, 校内で議論するだけでなく, 特に受検生の保護者や塔南在校生の意見もしっかり聞き, 府立高校をはじめとする他校の取組等も参考にすべき。

5. 詳細

(1) 塔南高校の取組状況について

## 【塔南高校から報告】

- ・これまであり方構想委員会中心に検討を進め, 教職員の意見交流会 (以下, 交流会) を 2 回実施した。教員の参加も増えてき, 全体的に改革の機運が高まってきた。
- ・現状の課題の整理を行っており, 特に総合的な学習の時間 (以下, 総学) や 45 分 7 時間授業のあり方などカリキュラムの改善が必要である。総学については現在学年ごとに取り組んでおり, 学校全体としての取組にはなっていない。
- ・新校のカリキュラムを先取る形で, 28 年度にカリキュラムの見直しを検討, 29 年度からの実施を目指したい。実現にあたり, ①教育みらい科の整理, ②部活動の整理という 2 つの課題がある。①みらい科については, 府内全域募集, 前期 100% 募集という強みのある専門学科のままとするのか, クラス規模等どうするのか, ②部活動については, 強化指定をどうするのか, 吹奏楽部を新校に引き継ぐのか等, 新校の施設整備や人事面に关わる内容でもあるので, 教育委

員会とも十分すり合わせをしながら検討していきたい。

- ・校内での TALS（塔南アクティブ・ラーニング研究会）、塔南教師塾の取組を 28 年度以降も広げていきたい。同時に今の取組の効果も検証し、PDCA サイクルにより発展させていく。
- ・組織面では、現在総学を担当する部署がないため、企画研究部のあり方等も含め、校務分掌を見直していきたい。また、あり方構想委員会についても分掌に位置づけるなど、検討したい。
- ・現在塔南では地域や企業との連携はあまり多くないが、小中学校や大学との連携については、みらい科中心に行っているところ。普通科においては、NPO 法人の協力のもとキャリア教育の一貫で企業や大学と連携した取組を行っている。
- ・有識者や唐橋自治連からの意見も踏まえ、校内での議論を通じ学校全体で改革の機運を高めることを、あり方構想委員会として交流会の目標とした。次回の交流会では、総学をテーマにする予定。

【主なやりとり（○塔南高校、●村上校長・田邊校長、◎市教委）】

●教育課程はどこが中心に作るのか。

○新しい方向性と現状をすり合わせる組織がないことが今の課題である。

●教職員が交流会を通じて活発に議論されていることは良いことであり、校内全体でモチベーションを高めることが必要。カリキュラム等を検討する中で、改革に関わっていくエネルギーをもった人材の育成も重要である。

●開校までに新校のコンセプトは変わっていくこともあるため、カリキュラム等について今の段階で固めすぎでは良くない。

●府立鳴沂高校は移転に伴い、学校のイメージが従前から大きく変わり、人気校となった。これは生徒の出身中学校や地域に対して、情報開示・共有を積極的に進めたことが一因であろう。こうした学校の意識の変化は、今の塔南から新校への改革に向けても参考になる。

○コンセプトは確かにまだ変化していくので、それも踏まえ、教職員中心に検討していく。情報開示等についても必要性は感じており、現在特に保護者に対して十分でない。今後検討する必要があるかもしれない。

◎総学を学校全体で取り組むための組織の検討については、喫緊の課題としてすぐにでも取りかかるべきである。

○現在、総学については、教員個人が取組内容を検討し、企業等と連携して実施している状態。個人で検討する場合のメリット（スピード等）と、組織で検討する場合のメリットを組み合わせ、今後の改革を進めていきたい。待ったなしの課題については、28 年度にまず実施し、29 年度以降に繋げたい。

◎総学やカリキュラム、みらい科や部活動の課題は、意見交流会等通じて教職員間で共有されているのか。特に部活動については、生徒にとって今の塔南全体の教育活動に占める部活動の優先順位が適切なのかを確認する必要があるのではないか。総学については、まず学校全体でどうしたいか系統立った内容を考えるべき。意見交流会では新しいことを考えるのも大事だが、現状の課題を共有することも必要。

○以前から塔南は各教科の代表者により総学の内容が検討されていたが、教科の意見を述べるにとどまり、学校全体でどうしたいか議論にならなかった。1 年から 3 年まで筋の通った取組が

なく、教員も課題に感じている。そこで、次回の交流会では総学のあり方をテーマに設定している。

●総学とは、3年間を通じて自ら学び、考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、自己の生き方を考えることができるようにするものである。交流会等を通じて、特に今まで塔南でしか勤務していない教員には、そもそも総学とは何なのかについてしっかり説明をし、十分理解していただく必要がある。

●全教員に、総学を「やらなければならない」という認識を持たせることが必要。また、スクールアイデンティティがなければ、総学で何をやるかは考えられない。まずは、スクールアイデンティティを決めるべきである。

◎塔南の生徒からも意見を聞くなどして、生徒を改革に関わらせてはどうか。また生徒会の活用にもつながるよう、生徒会を改革に絡ませるのも一つであろう。

●現在の検討において、決定的に抜け落ちていることが、保護者の意見を聞くということである。特に高校を選ぶ立場である受検生の保護者の意見は極めて重要であり、高校卒業後、どういった人間に成長させてくれるのか明確に打ち出すべきである。「進学多様校」の中身についてもさらに議論を深めるべき。

◎地域や生徒の意見に加え、保護者の意見もしっかり聞いていく必要がある。

## (2) 中間まとめ (案) について

【主なやりとり (○塔南高校、●村上校長・田邊校長、◎市教委)】

●p31「グローバル」の捉え方が「海外の学校との国際交流に積極的に取り組む…」という文言しか無い。新校で「グローバル」をどう捉えるのかしっかり議論し、より具体的に明示すべき。

●「目指す生徒像」に「情報化」の文言があるのは良い。保護者のニーズも強い。

◎p31 学校の基本コンセプト③〈生徒の持つ可能性を引き出し、高める学校〉について、さらに具体性が必要だと考えている。キャリア支援をどういう形で行い、結果的にどういった人間を育てるのが必要である。

◎現在集約中のみらい科卒業生アンケートの結果等を踏まえ、塔南の強みが分かるような新たな指標についても、校内で検討してほしい。

●新校の校是をまず決めることが重要。

●p31(3) 教員体制について、まだ未完成とのことなので、是非具体的に記述してほしい。

◎校内の議論も重要だが、それに留まらず、府立高校や他府県の高校へ視察に行くなど、広い視野をもって検討を進めてほしい。また、新校の地元である唐橋地域は教育に対して非常に理解がある。この強みを生かした教育内容を検討してほしい。塔南はポテンシャルの高い教員が多い。いかに熱意を持たせ活用していくか管理職やあり方委員会の手腕が問われている。



塔南高校あり方構想委員会

## 第2回意見交流会について（報告）

日時 平成27年10月14日（水）16:30～17:05  
 場所 第1会議室  
 目的 新校における「育てたい生徒像」を考える。5人前後のグループになり、まず、「つきたい力」や「育てたい態度」、「スキル」、「志」等についてブレインストーミングしたうえで、KJ法を用いて統合し、「育てたい生徒像」を浮かび上がらせる。

◆参加者 43名〔A（4名）、B（4名）、C（4名）、D（5名）、E（6名）、F（5名）、G（5名）、H（5名）、I（5名）〕＋管理職3名、主幹1名

## ◆はじめに（沓谷）＜2分＞

お集まりいただき感謝する。先週からご案内の通り、本日は新校で「育てたい生徒像」をテーマに意見交流していただく。高校3年間でどんな力や態度、志やスキル等を身につけさせたいかについて、みんなで考えたい。

「新校で」と言っても、どんな学校になるのかはまだ明確にはなっていないが、だからこそ、近い未来の新しい市立高校で我々が育てていきたい生徒はこんな若者だ！というイメージを、柔軟な発想で考えていただきたい。今の塔南には、「知性・誠実・世界の文化」、そして教育みらい科には「知性・志・実践力」という言葉が掲げられており、引き継いでいくべき点もあろう。

グループ内で、それぞれの考えを尊重し合いながら、グループワークを進めていただき、そこから、統合されるものや新しく生まれるものが、浮かび上がることを期待する。

## ◆現在の教育を取り巻く状況（正木）＜3分＞

グループ・ワークに入る前に、10年後、20年後、生徒が生きる時代はどんな社会なのか、その時代に対応した教育はどうあるべきかを、国の動向や京都市の教育方針をもとに概観したい。

○文部科学省：中教審に対する諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」より

○京都市：「平成27年度学校教育の重点」より

## ◆ブレインストーミング＜10分＞

## ◆カテゴリズ、統合 ＜10分＞ ※各グループの検討結果は別紙1参照

## ◆発表＜4分＞ 時間の関係で、発表グループを3つ求める→挙手3グループ有り。

A：規範意識（時を守る・礼をただす・場を清める）、コミュニケーション能力を育成し、社会で学び（インターンシップ）、将来、社会のリーダーとなる青年を育成する。世界を意識。L型人財とG型人財の育成。まとめると「品格教育」。品格を持った人間を育てる。

G：自主性、協調性、世界に目を向ける力、知らないことを知りたいと思うハングリー精神、判断力（善悪・公正）、言葉を大切にし、コミュニケーションを図る力、最後までやり抜く力、自分を知るにはまず他人を知る、などといった力が挙げた。特に協調性が核となる。

D：適切なコミュニケーション能力、アウトプットだけでなくインプットする力も必要。多様性

を受け入れる力。スキルでは、英語や情報活用能力。行動面では他者と関わる力、主体性と  
いった力をつけたい。

◆まとめ（沓谷）＜2分＞

短時間だったが、集中して行うことで成果が上がるということを目の当たりにした思い。感謝。  
時間の関係ですべてのグループに発表いただけないことがたいへん残念。できあがったポスター  
は、このあと、印刷室等にしばらく掲示するので、ぜひじっくりご覧いただき、今後ご意見い  
ただきたい。本日の成果は、欠席の方にご提出いただいた「事前ワークシート」別紙2の内容も  
含めてあり方委でまとめ、10月23日開催の第3回新校創設プロジェクト会議に持っていく。ま  
た、今後も意見交流会を続けていく。みんなでさらに前向きに検討していこう。

なお、先日の教職員研修会で「普通科系とはどういう意味か」という質問に対する回答で誤解  
を与えたかもしれないので改めて申し上げます。普通科系との表現には「普通科」以外に普通科系  
の「専門学科」も含んでいるということ。現在も塔南には教育みらい科があり、それをどうする  
かも決定していない。ご承知おきを。

◆事務連絡（正木）＜1分＞

- 「これからの大学受験の在り方を考える研究会」（10/24(土) at 立命館大学）の案内  
アクティブラーニングコモンズを始めとして施設見学ツアーもある。興味のある方は、  
10/16(金)までに進路指導部まで。

## 第2回意見交流会・各グループの検討結果について

### ◆各グループのキーワード

A = 品格教育

B = 前向きな思考, プラス思考

C = 京都に貢献, みんな仲良く!

D = 突破力, コミュニケーション能力

E = 自己肯定感, 思いやり

F = 広い視野, 自立・自律

G = 世界への好奇心, チャレンジと粘り

H = 他者と関わり地域に生きる, 社会を知る

I = 心身の健康, 受容力, 感性

### ◆カテゴリーごとの集約

#### <思考・判断・知識など>

**幅広い教養・学力** (高い学力・正確な科学)

**言語力** (ボキャブラリー・語学力・英語を活用できる)

**思考力** (論理的思考力・批判的思考力・他者の価値観への正当な批判・自分の頭で考え, 自分の言葉で話す・熟考・覚える数学ではなく考える数学)

**判断力** (判断力・自分で考え判断する・善悪の判断ができる・公正な判断ができる・空気を読む目)

**分析力** (現状を知る・立ち止まって客観的に物事を捉える・状況に応じて判断して行動する・先を見通す力)

**受容力** (マイノリティを大切にできる・他人の興味や関心を無視しない態度・人のちがいを認められる)

**創造性** (新しい価値観を創る力・発想力・創造力・伝統を作り出せる力)

**感性** (芸術的センス・自然を感じられる・五感力・芸術性)

**応用力**

#### <スキル>

**学習習慣・読書**

**情報処理能力** (情報処理分析能力・ICTの活用能力・ネット上で正しい情報を見つける力・情報活用能力)

**資格取得** (英語検定, 漢字検定, 簿記検定, 京都検定)

**基本的生活習慣** (生活者として自立できる力)

**礼儀** (言葉遣い・あいさつができる)

**たくましさ** (危機管理能力・適応能力・サバイバル力・「お勉強」以外のことができる・人に頼る力)

#### <表現・発信>

**コミュニケーション能力**

(多言語・自分の意見をはっきり伝える・自分の考えを正確に伝えることができる・自分の考えを順序立てて話せる・自己主張をする・発言力)(他者からの助言を受け入れる・相手の意見を聴くことができる・多様な人間(考え)を受け入れられる)(笑顔・“エデュケーションマインド”・科学的リテラシー)

**表現力** (自己表現・自己発信・プレゼンテーション能力・自分を他者に表現できる力・個性を表現できる・言葉遣い・言葉を大切にする・適切な表現手段を選択できる) **“京都のPR”**

## <志・姿勢・態度>

品格教育・人間力をみがく

リーダーシップ (リーダー性・社会のリーダー)

日本人としてのアイデンティティ・自己肯定感 (自分らしくあること・自分らしさを伝える)

文武一貫 (文武両道)

目標設定 (夢・高い目標・挑戦, 目標に向かって努力できる・卒業時の自分を考え高い志を保つ・逞しさ)

好奇心 (世界への目・外の世界への好奇心・他人への興味・知らないことを知ろうとする気持ち・職業, 世間への関心)

思いやり (他人を思いやる心・相手の立場を考慮することができる・友人を大切にする・[他者を思いやる]想像力・心配りの心・物を大切にする気持ち・いじわるしない・正義感がある・自分を大切にする・隣人愛)

他者との関係 (社会性・やさしさ・協調性・尊敬・親切・人権尊重)

挑む気持ち (失敗を恐れない心・ハングリー精神・チャレンジ・困難に立ち向かう・状況打破・強い信念)

自律と自立 (自主自律・自律心・精神的自立・自分の足で立つ・自分の将来を想像できる・自分の行動に責任をもてる・社会で生きる覚悟・自己を律することができる・責任を負うということから逃げない)

学びの姿勢 (粘り強く学び続ける・一生学び続ける・知的好奇心・主体的, 協動的学修者・自律的学習者)

広い視野をもつ (先入観にとらわれない・柔軟性・いろいろなことに関心をもつ・異文化理解)

次世代へつなぐ

## <行動>

規範意識 (時を守る・礼を正す・場を清める・礼儀正しい・5分前行動ができる・時間を守る・常識・正しい服装の着こなし・正しい言葉づかい・規律の意味を分かって守る)

主体性 (主体性・自分から進んで動く・開拓力・他人に影響されない)

PDCAサイクル (課題を発見, 分析できる力・目標を立て行動計画が作れる・分析力を持ち状況判断できる・常に成長することを考えている)

実行力 (物事を前向きに考える態度・時にはすっぱりやめる, 諦めることができる態度・有言実行する)

主体的行動力 (すぐ行動に移せる・人より先に行動できる・自主性・当たり前の事が当たり前に見えること)

社会的行動力 (ボランティア活動をする・地域と関わる・地域密着・選挙に行く・組織運営力・社交性・武力で物事を片付けようとする態度・広い年齢層の人とのコミュニケーション) **“インターンシップ”**

主体的な他者との関わり (他者に働きかける力・協力・何らかの役割を積極的に担う・仲間, 他人, 社会のために考え行動できる・さまざまなイベントに参加する), おもてなし力

協働 (仲間づくり・協同・協調・言語活動)

忍耐力, 最後までやりぬく力 (集中力・精神力・根気)

**“失敗(挫折)体験”**

**“実体験”**

積極性 (食わず嫌いしない・意欲的・積極的・知らないことをもっと知りたいと思う)

誠実さ (一生懸命・誠実さ・豊かな心・素直な心)

## <健やかな体と心>

健康 (健康・健全・元気・健やかな心と体・突破力のある体力と気力)・エネルギー

セルフコントロール (ストレスマネジメント・一生懸命に頑張るが時には休むことも忘れない)

自由である

教職員各位

平成 27 年 10 月 9 日  
あり方構想委員会

## 第 2 回意見交流会に向けた事前ワークシートについて

来週 10 月 14 日(水)16:30 から第 1 会議室で行う意見交流会を円滑に行うため、皆さんにあらかじめ考えていただきたいことをお伝えいたします。意見交流テーマ「**育てたい生徒像**」について、**どんな生徒を育てたいか、卒業段階でどんな力や態度を身につけさせたいか、などについて以下のシートを使ってお考えください。(すべて埋めなくても結構です。)**

なお、当日、校務等で欠席される場合は、このシートを 10/14(水)13:00 までに正木へご提出いただきますよう、ご協力ください。

お名前 \_\_\_\_\_

### < 1 > 周辺各校の校訓や教育方針を参考に、新校の「育てたい生徒像」をイメージしましょう。

< 例 >

塔南高校 「知性 誠実 世界の文化」「文武一貫」 教育みらい科「知性 志 実践力」

堀川高校 「自立する 18 歳を育む」

西京高校 「エンタープライズ精神を育む 3 つの C」

Collaboration Communication Challenge

紫野高校 「21 世紀を自分で歩く」「自分の中の世界を広げ、世界の中で自分を広げる」

嵯峨野高校 「常識」を学び、そして「常識を越える」力を育む

鳥羽高校 「自律する人間を育てます」「時代を詠み地域に学ぶグローバルリーダー」

あり方委 「自立した個人 自律的な集団の形成者 社会とつながる市民」

新校

**裏面もあります**

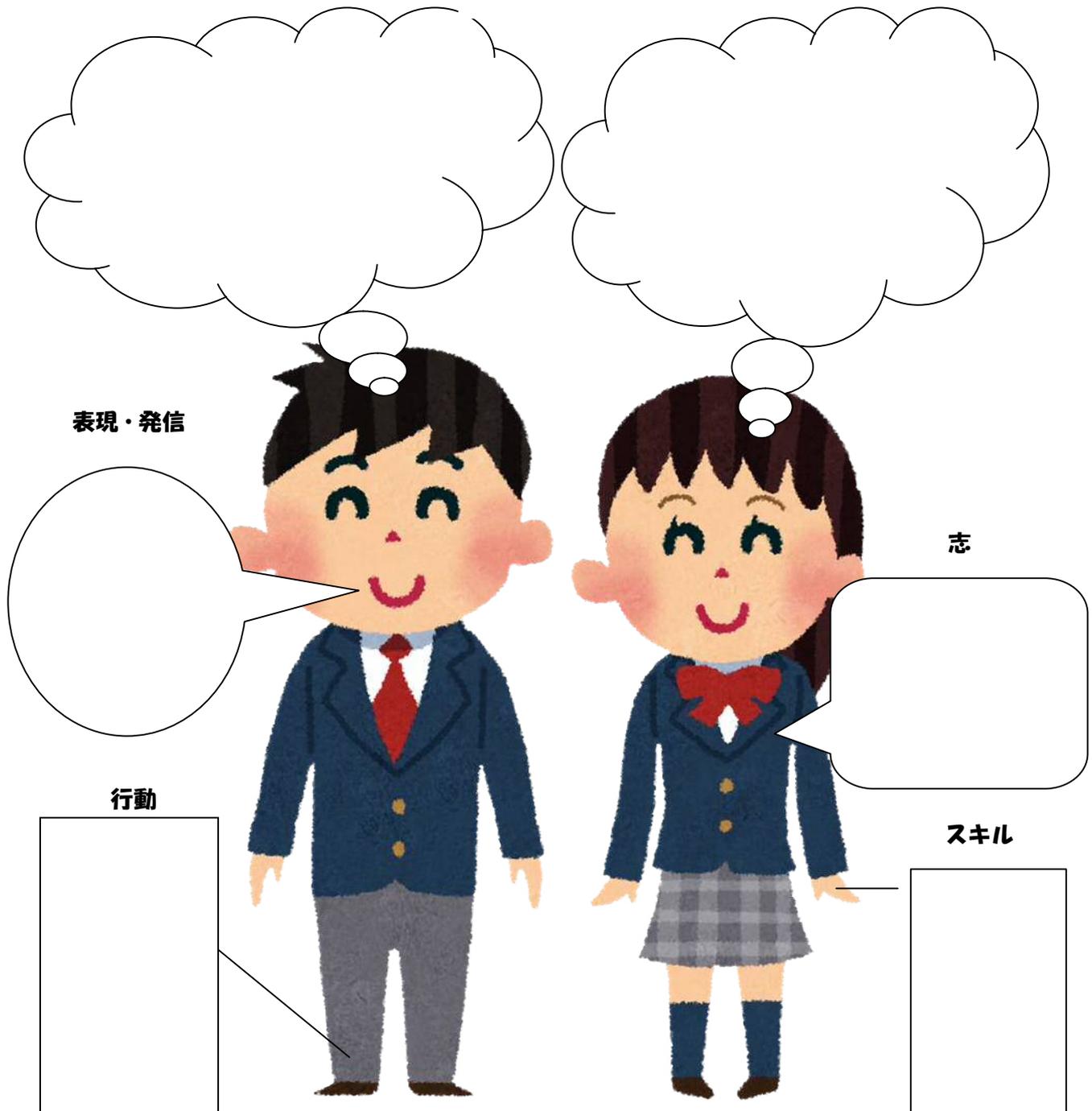
<2> 新校での教育活動を通して卒業段階で、具体的にどんな力や態度を身につけさせたいかを考えましょう。

〇〇ができる, 〇〇性がある, 〇〇心をもつ, ……など

**生徒が生きる時代・社会はこんな社会？**

(例) グローバル社会, 知識基盤社会, 予測不可能な社会……

思考・判断・知識など



新・普通科系高校創設に向けての「中間まとめ（案）」

平成27年11月  
京都市立新設高校創設プロジェクト

## 目次

1	新・普通科系高校の創設に向けて	… 1
2	新・普通科系高校の目指す生徒像・学校の基本コンセプトについて	… 3
	（1）目指す生徒像について	
	（2）学校の基本コンセプトについて	
3	学校規模と施設・設備の在り方	… 6
	（1）学校規模について	
	（2）施設・設備について	
4	教育方針の一層の具体化に向けて	… 8

## 1 新・普通科系高校の創設に向けて

京都府内の私立高校が大学進学への取組を強め、市民の私学志向が強まる中、本市においては、家庭の経済条件に関わらず子どもたちの進路希望を実現できる学校づくりを目指し、堀川高校を改革のパイロット校と位置づけて「人間探究科」「自然探究科」を平成11年に開設した。以降、常に時代の変化を見据え、生徒一人一人の個性の伸長と進路希望の実現を図るため、市立高校の各校が創意工夫を凝らした特色ある教育活動をこれまで展開してきた。こうした中、平成28年4月には将来の日本の「ものづくり」「まちづくり」をリードする担い手の育成を目指して、洛陽工業高校と伏見工業高校を再編・統合した京都市立工学院高校を開校する。

これにより、平成29年度以降に活用が可能となる洛陽工業高校の跡地に関しては、平成26年8月に洛陽工業高校同窓会である洛陽京工会から「洛陽工業高校の跡地は学校施設として活用して欲しい」旨の要望が、また同年11月には塔南高校同窓会、PTA役員経験者などで組織されている愛校会、PTA、塔南高校の4団体から「立地、施設の老朽化や狭隘な状況等の課題解決に向け、洛陽工業高校跡地へ塔南高校を移転させてほしい」旨の要望がそれぞれ教育長へ提出された。

塔南高校は、生徒急増期にあった昭和38年、当初は中学校として計画されていた施設を転用し、それまで普通科と工業科を併置していた洛陽高校、伏見高校両校の普通科生徒を受け入れる形で全日制普通科単独校として開校した。以降、教職員の熱意ある取組によって、教育界をはじめとする様々な分野で活躍する卒業生を数多く輩出している。また、平成19年には教師として求められる「知性」「志」「実践力」を高校段階から育成する全国初の教員養成系専門学科として「教育みらい科」が設置された。生徒たちは同じ志を持った仲間と将来を語り合いながら実践的な取組を通して切磋琢磨し、教師として必要な資質・能力の基礎を培っている。一方、交通の利便性に課題がある他、設置の経緯から生徒一人当たりの校舎面積は市立高校で最も狭隘であり、また、建物全体の約7割(床面積比)が耐震補強を要し、築50年以上を経過している。

こうした状況を踏まえるとともに、より充実した教育環境の下で最先端の高校教育を展開できるよう、現在の塔南高校を洛陽工業高校の跡地に移転・再編し、新しい普通科系高校を創設する「京都市立洛陽工業高等学校跡地における『新しい普通科系高校の創設に関する基本方針』」(以下、基本方針という)を平成27年6月に策定した。現在、基本方針の具現化に向けて、教育委員会、中学校・高等学校長会および塔南高校の教職員で構成する京都市立新設高校創設プロジェクトを設置し、次代を担う「新しい普通科系高校」(以下、新・普通科系高校という)の教育内容や学校規模、施設・設備などについて、次に示す観点を中心に検討を進めている。

<検討の観点>

- 生徒が主体的・協働的に学習する授業への質的転換や高大接続改革など、国での教育改革の方向性を見据えた魅力あふれる教育課程の編成と授業の在り方、生徒会活動や部活動など生徒活動の在り方
- 小・中学校や地域団体をはじめ、地元企業や大学と連携した教育活動の在り方
- 多様な分野において社会で貢献できる人材の育成に向け、生徒のキャリア発達を適切に支援し、多様な進路希望を実現する学校体制と指導の在り方
- 新しい教育活動を展開するにふさわしい普通教室や特別教室、ICT機器をはじめ、幅広い学習活動や部活動を展開するための施設・設備や学校規模の在り方

(以下、枠内は基本方針からの抜粋を示す)

## 2 新・普通科系高校の目指す生徒像・学校の基本コンセプトについて

### (1) 目指す生徒像について

基本方針において、新・普通科系高校では日本が目指す科学技術イノベーション立国を見据えるとともに、塔南高校において教育界をはじめとする様々な分野で活躍する生徒を育ててきた教育風土をしっかりと引継ぎ、多様な分野で「社会に貢献する生徒の育成」を学校の最高目標とし、学校教育と実社会とのつながりを重視した教育活動の下、「国際的な視野を持って主体的に社会に参画し、自立して社会生活を営むために必要な力」の育成を目指した学校づくりを行うこととしている。

また、目指す生徒像については次の通り掲げているが、これらを実現するための育てるべき力については、今後さらに具体化・明確化を図る必要がある。

#### 目指す生徒像

- ① 自らの将来像を描き、その到達に至る道筋と達成すべき課題を明確にして、目標の実現に向けチャレンジし続ける生徒
- ② 在校生はもとより、小・中学生や地域の方々等、世代や立場を超えた人々とも積極的に交流し、他者と協働して活動できる力を培い、多様な価値観や生き方を学びながら、自己の成長につなげることができる生徒
- ③ 国際化や情報化の進展する社会において、地域や社会の課題を多角的にとらえる視野を育み、科学技術分野や教育分野をはじめとする多様な分野で社会に貢献する気概を持って、社会的課題の解決や新しい価値の創造に向けて行動し、社会の発展に寄与することのできる生徒

## (2) 学校の基本コンセプトについて

新設高校は、これまで塔南高校が積み重ねてきた実践を受け継ぎ、社会でたくましく生き抜く力をしっかりと育て、多様な進路希望に対応できる学校を目指している。あわせて、京都という都市の強みを最大限に生かし、地域連携の取組を通して伝統文化や歴史に誇りを持ち、新たな価値を生み出していけるような教育的活動を展開する。

基本方針には学校の基本コンセプトとしては、3つの柱を掲げており、その方向性や具体案について、例示的に示す。

### ① <生徒が主体的・自律的にいきいきと活動する学校>

学習活動はもとより、生徒会活動や部活動などすべての教育活動において生徒が自発的に、意欲をもって全力で取り組める環境を提供する学校

教師主導ではなく、生徒自らが企画・立案を行い、主体的に取り組む教育活動を可能な限り展開する。生徒の能動的で探究的な学びを促すために、課題解決型授業やアクティブ・ラーニング<sup>※1</sup>を「総合的な学習の時間」を中核として各教科で展開する。その際には、生徒同士の討論を促すために少人数での講座展開やICT機器の積極的な活用を図る。また、生徒同士が切磋琢磨し、高め合えるよう、生徒会活動や部活動においても生徒たちがより主体的にマネジメントを行う仕組みを構築する。

※1 アクティブ・ラーニング … 教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学習することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

### ② <地域に貢献し地域とともに発展する学校>

地域の小・中学校との連携事業を継承・発展させるとともに、地域でのボランティア活動や伝統行事などに生徒が積極的に参画することを通して、地域の発展に貢献するなど、地域と共に歩む学校

多様な他者との関わりを通して協働する力を身につけさせるために、ダイバーシティマネジメント<sup>※2</sup>の観点を重視した活動を展開する。清掃や防犯・防災などのボランティア活動や福祉施設・NPO法人との連携事業を通して、地域の課題を共有し、その解決と新たな価値の創出に向けた取組を推進する。そうした取組に地域の小・中学生が参画する機会を設定することで、高校生が小・中学生と大人をつなぐ役割を担う。また、大学等で設置している地域連携科目の取組を高校段階から取り入れることを検討する。

※2 ダイバーシティマネジメント … 性別、年齢、国籍、障害の有無といった個人の属性にかかわらず、多様な人材の能力や発想、価値観を融合することで、組織の活性化を図る手法。

### ③ <生徒の持つ可能性を引き出し、高める学校>

生徒が成りたい自分を描きながら、夢や希望を持って学校生活を送れるよう、個の可能性を最大限に引き出し、その実現に向けて、一人一人を徹底的に大切にす学校

全ての生徒を個性ある人格として尊重し、生徒の人的成長にとって有益な学習環境をハード面だけでなくソフト面でも提供することができるユニバーサルデザイン<sup>※3</sup>の学校を目指す。生徒の夢の実現に向けて、3年間を通してキャリア発達を適切に支援し、コミュニケーション力や実行力などの社会人基礎力<sup>※4</sup>を高める教育活動を展開する。そのためにも、自学自習の取組を充実させ、基礎学力の定着を図るとともに、科学技術や教育などの多様な分野における企業や大学との連携や、海外の学校との国際交流に積極的に取り組むことを検討する。

※3 ユニバーサルデザイン … 障害のある人の便利さ使いやすさという視点ではなく、障害の有無にかかわらず、すべての人にとって使いやすいようにはじめから意図してつくられた製品・情報・環境のデザインのこと。

※4 社会人基礎力 … 組織や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力で、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成される。

## (3) 教員体制について

新設高校での取組を実現するための教員体制については、学習指導法の調査・研究はもとより、研修などを通して地域や外部連携先との積極的な連携を組織的に行えるようにする。また、大学や地域から講師を招くことなどを検討する。

### 3 学校規模と施設・設備の在り方

#### (1) 学校規模について

塔南高校においては、京都市・乙訓地域での中学校における生徒数や普通科系高校の志願者の動向を踏まえ、平成28年度入学者選抜における第1学年の募集定員は教育みらい科を含め7学級（280人）となっている。公立高等学校の設置、適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律（昭和36年法律第188号）第4条において、「高等学校の教育の普及および機会均等を図るため、その区域内の高等学校の配置及び規模の適正化につとめなければならない。」と規定されている。京都市・乙訓地域における中学生は今後5年間で概ね850人程度減少が予測されているが、新設高校においては普通科系の高校を想定しており、生徒の能力や個性を最大限に伸ばすために必要な教育課程の編成や講座展開の在り方、さらに特別活動や部活動の活性化を考慮すると、1学年で6学級（240人）程度の規模が妥当であると考えられる。

#### (2) 施設・設備について

目指すべき新しい教育活動に対応するだけでなく、地元と連携し、「地域に開かれた施設・設備」とすることで、施設・設備の在り方が学校の特色の一つとして発信できるように検討する。

#### <主体的・能動的な学びを促す施設・設備>

探究的な学びを展開するため、アクティブ・ラーニングに適した教室の仕様やラーニングコモンズ<sup>※4</sup>の機能を充実させる。10人程度の少人数から100名程度がプレゼンテーションや交流行事などで活用できる多様な教室を設置するとともに、教室に限らず廊下などの開かれた空間で自由に議論が生まれる環境を整備する。また、タブレット端末等のICT機器を積極的に活用した教育活動を展開するために、校内のWi-Fi環境の整備を検討する。

※4 ラーニングコモンズ … 複数の生徒が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。

<特色ある教育活動を展開する施設・設備>

科学技術をはじめとする最新の理数系教育に対応した特別教室や展示スペースを確保し、自然科学に関する資料や標本を充実させることにより、地域の小・中学校の理数系教育の拠点とすることを検討する。また、学習活動や部活動の合宿や海外からの留学生の受け入れが可能となる研修機能や宿泊機能を備えた施設や、全学年が参加可能な発表会やポスターセッション等が行える多機能型の施設を検討する。グラウンドや体育館については、「するスポーツ」だけでなく、応援・観戦や地域スポーツの振興などの「観る・支えるスポーツ」を意識した施設・設備の設置を検討する。

<地域コミュニティの拠点としての施設・設備>

これまでの洛陽工業高校における地域との連携をより積極的に行えるよう、地域コミュニティの拠点としての機能を充実させる。地域住民や近隣の小・中学生も気軽に利用できるような雑誌・図書の閲覧スペースやカフェテリアなどの施設や、災害時における住民の受け入れや救援物資の備蓄、消防器具の保管などの防災拠点としての機能を備えた施設・設備の在り方を検討する。

<時代の変化に対応できる施設・設備>

変化の激しい時代にあわせて柔軟に変容が可能となる自在性を備えた施設・設備についても検討する。また、一部の施設の維持管理については、民間活力の導入も視野に入れて検討する。

#### 4 教育方針の一層の具体化に向けて

教育は時代を後追いするのではなく、時代の先を見据え、時代に先駆けるものであるべきである。明治5年の学制発布に先駆けて、京都の町衆は明治2年に64の番組小学校を設立した。町衆にとって教育とは、自ら創り出すものであった。新・普通科系高校においても時代の潮流を的確に捉えつつ、市民の期待と要請に真摯に応え、地域とともに築き上げられなければならない。また、京都は1200年を超える歴史の中で磨き上げられた文化と景観が息づく都市である。この豊かな文化資源・人的資源を有する世界文化自由都市・京都において、よりよい未来を創造する市民、国民、国際人を育てる学校となるべく、新・普通科系高校を構想していきたい。

今後も国での教育改革の方向性を見据えながら、教育課程編成や授業の在り方の検討を引き続き進めていく。そのためにも、学校の核となる教育目標やこれからの時代を先取りした特色のある教育方針を定める必要がある。また、あらゆる分野において社会に貢献する担い手の育成に向け、多様な進路希望を実現する学校体制と指導の在り方については先進事例視察などによる調査・研究を進めていくとともに、市民の皆様からのご意見や外部有識者からの引き続きのご意見をいただきながら、教育方針の一層の具体化を図っていききたい。

## 「京都市立新設高校創設プロジェクト」に係る検討組織の構成について

## 1. 外部有識者

氏名	役職等
北川 進	京都大学物質－細胞統合システム拠点長 京都大学大学院工学研究科教授
溝上 慎一	京都大学高等教育研究開発推進センター 教授
武田 靖史	村田機械株式会社 取締役 業務支援本部 本部長
今野 圭子	中学校PTA代表 (京都市立中学校PTA連絡協議会庶務・近衛中学校PTA会長) ※第1回有識者会議は今野氏が御欠席のため、代理で京都市立中学校PTA連絡協議会会計・久世中PTA会長の今村志津子氏が御出席
村上 久明	高校PTA代表 (京都市立高等学校PTA連絡協議会会長・西京高等学校PTA会長)

## 2. 「京都市立新設高校創設プロジェクト」委員等 (◎はプロジェクト委員)

氏名	役職等
◎古池 強志	京都市立塔南高等学校 校長
◎村上 英明	京都市立西京高等学校 校長 (京都市立高等学校長会代表)
◎田邊 美野利	京都市立七条中学校 校長 (京都市立中学校長会代表)
清水 稔之	京都市教育委員会 教育企画監
◎大黒 喜裕	同 指導部 担当部長
◎三宅 慎一	同 指導部学校指導課 担当課長
◎川浪 重治	同 首席指導主事
◎辰巳 敏秀	同 課長補佐
◎末房 和真	同 指導主事
沖田 純一	同 係員

※その他、オブザーバーとして、塔南高校の教職員からなる「塔南高校あり方構想委員会」のメンバーも適宜会議に出席（下表）

氏名	役職等
沓谷 恭子	京都市立塔南高等学校 教頭
正木 廣樹	同 主幹教諭
黒澤 寛己	同 教諭
松田 尚久	同 教諭
飯島 弘一郎	同 教諭

各校のキーコンセプト等について（主に「京都府公立高等学校スクールガイド2015」から抜粋）

学校名	キーコンセプト、スローガン等	教育目標
洛陽工業高校	「挑戦する」「突破する」「まっすぐに折れない心」の若者を育てます。 【校是】創造・自立・協調 【特徴】ハイパーステージ（科学・技術系特進コース）	「技術と科学をもって社会に貢献するスーパー理系人材」の育成を目指す。
伏見工業高校	明日への絆・明日への技術・明日への力 【校是（教育目標）】 ①基本的学力、②基本的人権、③基本的生活習慣、④労働観を身に付ける 【特徴】大学・企業・地域との連携学習、各種コンテスト参加、資格取得の奨励	まちづくり・ものづくりに関する知識・技術を身に付け、創造性や課題解決能力・コミュニケーション能力を高め、社会に貢献し活躍できる人材を育成する。
西京高校	自らの意思で進んで行動する気性・敢えて困難に挑戦し克服しようとする気概・自分独自のものを創り出そうとする意欲 【校是】進取・敢為・独創 【特徴】エンタープライズ教育	「進取・敢為・独創」の校是のもと、「社会人力」を育成し、将来その力を十分に発揮し、社会に貢献し活躍できるグローバルリーダーを育てる。
銅駝美術工芸高校	ひとりひとりの個性が美術で輝く!! 【校是（教育目標）】 ・美術系進学希望者の学力・実技力向上をはかる。 ・美術と関わる産業界で活躍できる人材を育成する。 ・美術工芸作家を目指すための能力を養う。 【特徴】美術工芸教育	・美術系進学希望者の学力・実技力の向上をはかる。 ・美術と関わる産業界で活躍できる人材を育成する。 ・美術工芸作家を目指すための能力を養う。
京都堀川音楽高校	～限らない夢と響きを求めて～ 【校是（教育目標）】 人間尊重の精神を基盤に、心豊かな人間を育てるとともに、将来幅広く音楽専門家として活躍し、文化の発展に貢献できる人材を育成する。 【特徴】音楽専門教育	音楽専門教育を実施する高等学校として、人間尊重の精神を基盤に、心豊かな人間を育てるとともに、将来広く音楽専門家として活躍し、文化の発展に貢献する人材を育成します。
堀川高校	すべては君の「知りたい」から始まる 【校是】立志・勉勵・自主・友愛 【特徴】探究活動	校訓「立志・勉勵・自主・友愛」に示された自立、独立の人間形成を図るため、多様な生徒たちが互いに学びあう「豊かな学校」を構築し、「自立する18歳」を育成する。
日吉ヶ丘高校	君の学びをクリエイティブにする! 【校是】自律・協同・創造 【特徴】進学型単位制	グローバル化・多様化が進む社会を切り拓く自立した人材を育成するため、大学進学への保障はもとより、使える語学力・コミュニケーション能力の育成を図る。
紫野高校	21世紀を自分で歩く 【校是】自由と規律・知性と創造・参加と協力 【特徴】アカデミア科（英文系を受け継ぐ専門学科）	「21世紀を自分で歩く」自立した青年の育成
塔南高校	すべては塔南から 【校是】知性・誠実・世界の文化 【特徴】教育みらい科	実践的な知と実行力を養う「文武一貫」の教育をおこない、社会で活躍・貢献できる有用な人材を育成する。
京都工学院高校	科学技術で社会に貢献する「プロジェクト工学」を核とした新しい高校 【校是（教育目標）】 豊かな人間性、確かな技術を身に付け、京都から社会の発展と人類の幸福に貢献できる人材を育成する 【特徴】プロジェクトゼミ、STEM教育	豊かな人間性、確かな技術を身につけ、京都から社会の発展と人類の幸福に貢献できる人材を育成する。

市立高校

以下、  
府立

学校名	キーコンセプト、スローガン等	教育目標
山城高校	本気モードで、「私」をみがく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル社会で活躍する力を育む</li> <li>・自主・自立・共生の精神を養う</li> <li>・ハイレベルな文武両道をめざす</li> </ul>
鴨沂高校	～「京都文化」の発信は鴨沂から～	「京都文化」の学習を通して、豊かな情操と高い教養を身につけるとともに、それらを活用して世界に向けて発信できる人材を育成する。
洛北高校	伝統と創造 そして 輝く君がいる	確かな見通しをもって主体的に生き抜く、創造性あふれる心豊かな人間の育成
北稜高校	世界にはばたくグローバルな人材の育成	「自分で考え、自分で表現する」「国際理解教育」「環境理解教育」をテーマに、世界にはばたくグローバルな人材を育成する
朱雀高校（全日）	学んで挑んで未来を拓こう	自己と社会の未来に対して夢と希望と意欲を持ち、自立と自律に基づき自由を愛する志のある人を育てる。
洛東高校	「正しく働き、正しく生きる」人間の育成	「正しく働き、正しく生きる」人間の育成
鳥羽高校	自律する人間の育成	京二中から受け継ぐ質実剛健の校風を礎に、伝統と文化を学び、思考力・表現力・発信力を育て、スポーツ分野を含むあらゆる分野で国際的に活躍できる人材の素養を育む
嵯峨野高校	「君」にしかできないことが「ここ」にある (学校案内より)	京都から世界へ グローバル社会のリーダーとして社会貢献できる人材を育てます。
北嵯峨高校	『人を育て、心を育む』	《独創質実》の校是の下、自然と歴史に育まれた学校環境を活かし学習や部活動をとおして、社会に有用な人材を育成する。
桂高校	「地域に根ざし地域に愛される学校」	学力の向上と調和のとれた人格の育成 一知・徳・体のバランスのとれた学校をめざしますー
洛西高校	宿せ！『明朗なる真昼の精神』	豊かな未来をつくるため、社会に貢献し確かな見通しをもって主体的に行動する、創造力あふれる心豊かな人間を育成する。
桃山高校	夢・感動・挑戦～君のステージがここにある～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知・徳・体の調和のとれた人格形成</li> <li>・新時代をリードする独創性と行動力の育成</li> <li>・国際社会を生きる資質・能力の涵養</li> </ul>
東稜高校	真の自己実現にTRY～夢に向かって私たちの未来は∞ (無限大)～	「TRY: True Realization Yourself (真の自己実現)を合言葉に、生徒一人一人の夢を実現するための3つの力を育み、社会に貢献できる人間の育成を目指します。
洛水高校	自主・自律・挑戦	自主・自律・挑戦の校是に基づき、自らの意志で、自らを高め、新しいことに挑戦する人間の育成を目指す
京都すばる高校	” 本当に大切なことがここにはある”	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い教養と豊かな情操を持ち確かな学力を備えた実質清楚な人間を形成する。</li> <li>・主体的、継続的に学ぶ意欲を持ち深い専門性を備えた人間を形成する。</li> <li>・創造力と豊かな国際感覚を持ち社会に貢献できる人間を形成する。</li> </ul>
向陽高校	Keep going toward your goal	<p>様々な教育活動を通して</p> <p>①将来への夢や目標を設定し、その達成、実現に向けてあきらめないで努力する生徒を育成する。</p> <p>②知徳体美のバランスのとれた生徒を育成すると同時に、社会人として生きるための使命感を培う。</p>
乙訓高校	乙訓で鍛える知力・体力・人間力 乙訓で創る君自身の物語（ストーリー）	知・徳・体の調和のある人間の育成に努め「文武両道」を目指す。
西乙訓高校	「学びの空間 夢中になれる瞬間」	平和的な国家及び社会の有為な形成者として、新しい時代に向かって主体的に、たくましく生き抜く、創造性あふれた心豊かな人間の育成に努める。
東宇治高校	夢を目標に、目標を実現（リアル）へ	生徒の学力・能力を高める教育活動を推進し、たくましい心と豊かな学力を持った知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を目指す。

学校名	キーコンセプト, スローガン等	教育目標
菟道高校	「チーム菟道」10年後の満足をめざして	「さとく、さやかに、たくましく」を校訓とし、「10年後の満足」をめざす教育の推進
城南菱創高校	いま、輝きの瞬間(とき)	確かな進路実現&充実した自主活動 未来志向で、次元の高いことに積極果敢にチャレンジ!!
城陽高校	「進化する城陽～なりたい自分を考え、自ら学び、行動する～」	・知・徳・体の調和のとれた人格形成 ・自ら進路を切り拓く能力・態度の育成 ・生命と基本的人権を尊重する態度・実践力の育成
西城陽高校	笑顔 ひたむきさ 感動	部活動の盛んな進学校として質の高い教育を実践し、人としての大きな成長を図る。
京都八幡高校(北キャンパス)	科学・共生・感動	「科学・共生・感動」をコンセプトに、ユニバーサルデザインを基本理念とした教育活動を展開し、人と社会に貢献する自立した人間を育成する。
京都八幡高校(南キャンパス)	科学・共生・感動	「科学・共生・感動」をコンセプトに、ユニバーサルデザインを基本理念とした教育活動を展開し、人と社会に貢献する自立した人間を育成する。
久御山高校	英知と情熱	自学・自律・自鍛、そして共助を教育の根本に据え、自己実現に向けて積極的に行動し、主体的に社会参画できる、教養豊かな人材の育成を図ります。
田辺高校	人間力のある人を育てます	次の力を身につけることを目指します ・事実にもとづいて真理を求め、深く考える力 ・知識と実践を結合し、創造的に体験を発展させ、問題を解決する力 ・自己を正しく表現し、相互に信頼し、協力する力 ・豊かで健康な心身を養い、困難に打ち勝つ力
木津高校	君の未来をプロデュースする!	1. 自主協調の精神 2. すぐれた英知と体力 3. 人と自然を大切にする豊かな心
南陽高校	～進取・敬愛・雄健～	知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性と国際性を身につけ、社会の発展に寄与する生徒の育成を目指します。
北桑田高校	みがく。かがやく。	恵まれた自然、落ち着いた学習環境の中で、人と出会い、がむしゃらに頑張り、キラキラ輝く新しい発見をいっぱいさせて、自分の進路第一希望を実現していく生徒を育てます。
亀岡高校	まっすぐに、とことん 進む 未来への道	「自ら進んで自分を鍛え、互いに理解し助け合おう」
南丹高校	～輝け個性 みがけ知性～	総合学科への新しいステップへ
園部高校	Global&Aware～世界へ、思いやりをもって～	Global&Aware～世界へ、思いやりをもって～ 「Global」国際的な感覚と視野を持ち、「Aware」受容力を兼ね備えた生徒の育成
農芸高校	生命を育み、自然と調和し、未来の環境をきざく	校訓「質実剛健」のもと、次の3つを目指す京都農芸生を育成する。 「生命を慈しみ他を思い遣りつながらる力をもつ」、「社会人基礎力を養い未来を展望する力をもつ」、 「質実剛健の気風を培い挑戦し続ける力をもつ」
須知高校	リスタ須知 夢無限大 ∞ 継続、そして飛躍!!	「自主」「規律」「誠実」を校訓とし、心身ともに健康で、自主の精神に富み、根気よく学ぶ力と豊かな情操を身につけた有為な社会の形成者を育成する。
綾部高校 (四尾山キャンパス)	綾部高校には +α がある!	生きる力となる学力を養う。主体的に行動する力を養う。生命を大切に、豊かな心とたくましい体力を養う。校是「探真究理」

学校名	キーコンセプト、スローガン等	教育目標
綾部高校 (由良川キャンパス(東分校))	由良川キャンパスで農を学び、自らの夢を実現させよう！	校是「探真究理」 ・生きる力となる学力を養う。 ・主体的に行動する力を養う。 ・生命を大切に、豊かな心とたくましい体力を養う。
福知山高校	～福高は、あなたのみらいを応援します～	本校では柔軟な教育課程を編成し、生徒一人一人の希望進路実現はもちろん「みらい」を見据えた教育に取り組んでいます。
工業高校	～ものづくりを通して人づくり～	1. 豊かな人間性を培い、国家及び社会の有為な形成者として必要な教養を身につけた人間を育成する。 2. 高度技術化社会に対応できる知識と技術を備え、豊かな創造力のある実践的な技術者を育成する。 3. 国際化時代に対応できる豊かな国際感覚を身につけた人間を育成する。
大江高校	学びたい科目が、大江高校だからこそ学べる！	【知】自ら学ぶ意欲と態度を育てる 【情】情操豊かな人間性を培う 【意】自他の人権を尊重する精神を培う 【体】心身ともに健康で安全に生き抜く力を育てる
東舞鶴高校	夢を育み大きな人に～希望の実現～	学習指導・進路指導・生徒指導の3つを一体的にとらえ、生徒一人一人にきめ細かい丁寧な指導を行うことにより学力を向上させ、希望進路を実現させる。
西舞鶴高校	「サイエンスの西高」は夢チャレンジ舞台！	西舞鶴高校は、「究理・尚志・敬人」の校訓のもと、勉学と部活動の両立を奨励するなど、知・徳・体のバランスが取れ、自立した生徒の育成を目指します。
宮津高校	「青雲の志」～目覚めよ！私の中の可能性～	我が国や地域の発展に貢献する「社会的使命感と青雲の志を持つ人材」の育成
海洋高校	海洋ならではの挑戦 だれもやていないことをやってみませんか	知・徳・体の調和のとれた発達を図り、勤労と責任を重んじ、基本的人権を尊重し、国際感覚を身に付けた、心豊かでたくましい生徒を育成します。
加悦谷高校	一人一人の可能性を伸ばす	1. 生徒一人一人の可能性を伸ばし、希望進路の実現を図るとともに、社会に貢献できる人材の育成 2. 「地域に根ざした学校」として、信託と期待に応えうる学校づくり 3. 生徒、自らがつくる「安心・安全」な学校づくり
峰山高校	～求めてやまじ 高き理想を～	心身ともに健康で、礼儀と規律を重んじ、人を思いやり、郷土を愛するとともに、高い志と柔軟な国際感覚をもって自己を高め、創造力豊かに社会に貢献できる人間を育てる。
峰山高校(弥栄分校)	「ものづくり」を通して「ひとづくり」	心身ともに健康で、礼儀と規律を重んじ、人を思いやり、郷土を愛するとともに、高い志と柔軟な国際感覚をもって自己を高め、創造力豊かに社会に貢献できる人間を育てる。
網野高校	青年は未来を信じ使命に生きる	生徒信条「青年は未来を信じ使命に生きる」の精神にのっとり、将来に対する夢や目標を持たせ、希望進路の実現に向けて挑戦する姿勢を大切にする。
久美浜高校	あなたの色で輝こう～可能性は∞～	本校の歴史と伝統を踏まえ、校訓「意欲、克己、創造」の精神を培い、個性を生かし、社会に貢献できる若者の育成を目標とする。
清明高校	ここからはじめる いまからはじめる ～学びのアンダンテ ゆっくり じっくり しっかり 成長～	様々な志望動機や学習経験を持つ生徒に、社会的自立を図るための確かな学力と、社会生活実践力を身に付けさせ、豊かな人間性を育む教育を推進します。